CentreCOM® 9606T　リリースノート

この度は、CentreCOM 9606T をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のユーザーマニュアルに記載されていない内容や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ソフトウェアバージョン　2.2.2 pl21(2.2.2-21)

2　未サポート機能

以下の項目は付属のユーザーマニュアル、または最新のコマンドリファレンスに記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- □ バックプレッシャー
- □ ポートの通信モード固定設定(オートネゴシエーション以外の設定)
- □ BOOTP サーバー

3　本バージョンでサポートされた機能

ソフトウェアバージョン2.2.2 pl18から2.2.2 pl21へのバージョンアップにおいて、以下の項目がサポートされました。

- □ QoS
  QoSについては、最新のコマンドリファレンス(J613-M0522-00 Rev.C)の「スイッチング/QoS」の節を参照してください。付属のユーザーマニュアルにもQoSの仕様が記載されていますが、各レベルのキューに割り当てられる帯域の記載に誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

- □ IP ルートフィルター
  IP ルートフィルターについては、最新のコマンドリファレンスの「IP/ 経路制御フィルター」の節を参照してください。

- □ VRRP
  VRRP については、最新のコマンドリファレンスの「VRRP」の節を参照してください。

4　本バージョンで追加・仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン2.2.2 pl18から2.2.2 pl21へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加、または仕様変更されました。

4.1　ハードウェア IP フィルター EMPORT/EPORT パラメーター指定時の仕様変更

EMPORT/EPORTパラメーターを指定した場合、FDB、L3テーブルのどちらにも登録されていないMACアドレス（ブロードキャスト、マルチキャスト、未学習のユニキャスト）宛てのパケットはフィルタリングの対象にならないよう仕様変更しました。そのため、EMPORT/EPORT パラメーターを使う場合は、以下の点にご注意ください。

- □　TCPSYN,TCPACK,TCPFINによるフィルタリングを行う場合は、EMPORT/EPORTを併用しないでください。
- □　ブロードキャスト、マルチキャストパケットのフィルタリングを行う場合は、EMPORT/EPORT を併用しないでください。

4.2　IGMP スヌーピングの機能拡張

IGMP スヌーピング使用時に、IGMP によるメンバーの登録がない状態で受信したマルチキャストアドレス宛てのパケットをフラッディングしないように変更しました。

4.3　DHCP クライアント機能 Client ID の形式設定コマンド追加

複数のインターフェースをDHCPクライアントとして動作させるときに、インターフェースごとに異なる Client ID を使えるようにしました。設定は新規追加された SET DHCP EXTENDIDコマンドで行います。詳細は最新のコマンドリファレンスを参照してください。

4.4　DHCP サーバー機能に関する仕様変更

DHCP クライアントによって再送信された DHCP Discover メッセージに対して、DHCP Offer メッセージを送信するように仕様変更しました。

4.5　ファイアウォール（AT-FL-02）セッションテーブル管理内容の変更

PUBLICインターフェース内の通信についてはファイアウォールセッションテーブルでの管理を行わないよう変更しました。

4.6　IGMP（AT-FL-03） Max Response Time の初期値変更

Group-Specific QueryメッセージのMax Response Timeの初期値を100（10秒）から10（1秒）に変更しました。

5　本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン2.2.2 pl18から2.2.2 pl21へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

5.1　DHCP サーバー機能において、任意の VLAN で IP アドレスを取得した端末を別の VLAN に移動すると、該当の端末がIPアドレスを取得できなくなる場合がありましたが、これを修正しました。

5.2　DHCPサーバー機能において、任意のポートで静的にIPアドレスが割り当てられた端末を別のポートに移動すると、ARPテーブルの更新が正しく行われないために、該当の端末が IP アドレスを取得できなくなる場合がありましたが、これを修正しました。

5.3　DNS リレー機能使用時、サーバーの応答パケットの送信元 IP アドレスを、スイッチ自体のアドレスに変換せず、クライアントに送り返すため、一部のクライアントでドメインネームを解決できないことがありましたが、これを修正しました。

5.4　OSPFにおいて、AS境界ルーター上でインターフェースがダウンしたときに、外部ルート情報がPrematureエージング機能によってルータードメインから削除されるように修正しました。

5.5　ソフトウェア IP フィルターにおいて、ADD（SET）IP FILTER コマンドで SIZE パラメーターを指定した場合に、フィルターが正しく動作するよう修正しました。

5.6　ソフトウェア IP フィルターにおいて、ADD（SET）IP FILTER コマンドで設定した内容がただちに動作に反映されない場合がありましたが、これを修正しました。

5.7　EMPORT/EPORTパラメーターでフィルタリングを行うイーグレス（出力）ポートを指定した場合に、指定のポート以外のポートで、ARPの解決が行われていない通信にフィルターが適用されていましたが、これを修正しました。これにともない、EMPORT/EPORTパラメーター指定時の動作仕様が変更されています。詳細は「**4.1 ハードウェアIPフィルター EMPORT/EPORT パラメーター指定時の仕様変更**」を参照してください。

5.8　ADD（SET）SWITCH L3FILTER MATCHコマンドでTYPE=SNAPを指定し、ADD（SET）SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの TYPE パラメーターで、間に 0（ゼロ）が 2 つ以上続いて、かつ、連続した0が0以外の数字で挟まれたプロトコル番号（例：AppleTalk のSNAPパケット「080007809B」）を指定した場合、このフィルターが正しく動作するよう修正しました。

5.9　NVS 上にログが保存されるよう修正しました。

5.10 SHOW IP INTERFACE コマンドの表示項目 PArp（プロキシー ARP の有効・無効）が、常に「-」で表示されていましたが、これを修正しました。

5.11 ADD（SET）IP RIPコマンドのDEMAND=NO（トリガーアップデートの無効）の設定が有効になりませんでしたが、これを修正しました。

5.12 SNMPにおいて、インターフェース拡張グループMIBオブジェクト［ifHCInOctets］などの64bitカウンター（Counter64）が正しく動作しませんでしたが、これを修正しました。

5.13 SNMPにおいて、起動時にリンクトラップが送信されない場合がありましたが、これを修正しました。

5.14 改行コードに「CR+LF」ではなく「LF」だけしかセットしないTelnetクライアントから、本製品に対してログインができるよう修正しました。

5.15 特殊なARP requestパケットを受信すると、ARPテーブルが更新されない場合がありましたが、これを修正しました。

5.16 宛先に存在しないホストを指定してPINGコマンドを実行すると、「Request Time out」というメッセージが表示されていましたが、これを「Destination host unreachable」と表示されるよう修正しました。

5.17 SHOW INTERFACE COUNTERSコマンドで表示される統計カウンターのうち、VLANインターフェースのifOutOctetsがカウントされていませんでしたが、これを修正しました。

5.18 ファイアウォール（AT-FL-02）において、ADD（SET） FIREWALL POLICY LISTコマンドのTYPEパラメーターにMACアドレスを指定した場合、アクセスリストに記載したMACアドレスに対するルールが動作しませんでしたが、これを修正しました。

5.19 ファイアウォール（AT-FL-02）使用時に5%以上の負荷がかかると、送信キューのパケット数が最大（2048）になり、通信が停止する場合がありましたが、これを修正しました。

5.20 DVMRP（AT-FL-03）を3台以上の機器で動作させたとき、複数の経路が存在すると経路変更が正しく行われず通信ができなくなる場合がありましたが、これを修正しました。

5.21 DVMRP（AT-FL-03）とタグVLANを併用した場合、タグ付きポートから送信されるマルチキャストパケットにタグが付与されるよう修正しました。

5.22 DVMRPを有効にしたときに送信されるProbeメッセージの1つ目と2つ目のGeneration IDが異なっていたため、これを修正しました。

5.23 DVMRP（AT-FL-03）において、すべてのインターフェースで同一のGeneration IDが使用されていましたが、これを修正しました。

5.24 DVMRP（AT-FL-03）において、PruneメッセージのPrune有効時間（Prune Lifetime）が終了しても、Pruneメッセージを受信したインターフェースからマルチキャストパケットの転送が再開されませんでしたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

6.1 SNMP MIB オブジェクトについて

参照 「ユーザーマニュアル」2-51 ～ 2-52 ページ

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

□ MIB IIオブジェクト［ipNetToMediaPhysAddress］に正しい値がセットされていません。
□ ブリッジ MIB オブジェクト［dot1dStpPriority］に正しい値がセットされていません。
□ ブリッジ MIB オブジェクト［dot1dBaseType］に正しい値がセットされていません。
□ ブリッジ MIB オブジェクト［dot3StatsFrameTooLongs］が正しくカウントアップされません。

6.2 ソフトウェア IP フィルターについて

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」/「ソフトウェアIPフィルター」

ADD（SET）IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

6.3 フォワーディングデータベースについて

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「フォワーディングデータベース」

□ パケットの種類に関係なく、パケットの受信中に本体を起動すると、フォワーディングデータベースに不明な MAC アドレスが登録される場合があります。

□ 1回目のエージアウトですべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

6.4 ディレクティドブロードキャストアドレス宛のパケットについて

異なるネットワークからディレクティドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返すReplyパケットの送信元IPアドレスに、受信インターフェースのIPアドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）のIPアドレスがセットされます。

6.5 DHCP サーバー機能について

参照 「コマンドリファレンス」/「DHCP サーバー」

□ クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目Free Address（未使用のIPアドレス一覧）に、該当のIPアドレスが重複して表示される場合があります。

□ プールされた IP アドレスのうち最初の IP アドレスに限り、本体起動時に使用状況の確認が行われません。

6.6 DHCP リレーエージェント機能について

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」/「DHCP/BOOTPリレー」

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値（最大転送回数）より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

6.7 DHCP クライアント機能について

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」/「IP インターフェース」

リース延長要求中（RENEWING 状態のとき）に、DHCP request メッセージがユニキャストでなくブロードキャストで送信されます。

6.8 VRRP について

参照 「コマンドリファレンス」/「VRRP」

□ SET VRRP コマンドの PRIORITY パラメーターの設定（変更）が有効になりません。

□ SHOW VRRP コマンドで表示される「Up Master Trigger」と「Down Master Trigger」カウンターの値が、トリガーが起動された回数でなくトリガー番号になっています。

6.9 ファイアウォール(AT-FL-02)のアクセスリストについて

参照 「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」/「フィルタールール」

ファイアウォールルールにアクセスリストを指定した場合、該当のルール以降のルールが無効になります。アクセスリスト以外に複数のルールを併用する場合は、アクセスリストのルール番号に「299」（最終番号）を指定してください。

6.10 IGMP(AT-FL-03)について

参照 「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

□ IGMP タイマーの Other Querier Present Interval の値を変更することができません。

□ IGMP を有効（ENABLE IP IGMP）から無効（DISABLE IP IGMP）に設定しても、Report メッセージがフラッディングされません。設定を保存すると正常にフラッディングされます。

6.11 DVMRP(AT-FL-03)について

参照 「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「DVMRP」

□ Graft/Prune メッセージを受信すると、受信ポートの所属 VLAN 内すべてのポートに Graft/Prune メッセージがフラッディングされます。

□ Graft/Prune メッセージの Source Address フィールドにホストのアドレスではなく、ネットワークアドレスが設定されます。

□ 送信ホストと異なるVLANにグループメンバーが存在している構成において、そのVLANに所属する下流側ルーターからGraft メッセージを受信しても、マルチキャストパケットの転送が行われません。

7　ユーザーマニュアルの補足・誤記訂正

7.1　FAULT LED について

参照「ユーザーマニュアル」1-9, 6-5, 6-18 ページ

本体前面FAULT LED（赤）の点滅の表示内容に誤りがありましたので、以下のとおり訂正してお詫びいたします。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本体、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
		点滅	1回点滅：　ファンに障害があります。 3回点滅：　リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。 4回点滅：　SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。 5回点滅：　SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていていません。
		消灯	システムに異常はありません。

7.2　ポートトランキングについて

参照「ユーザーマニュアル」3-7 ～ 3-10 ページ

□　バージョン 2.2.2 pl18 で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex固定からSPEEDパラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン2.2.2 pl18以降を搭載した機器とバージョン2.2.2 pl10 を搭載した機器間ではポートトランキングの接続はできませんのでご注意ください。

□　バージョン2.2.2 pl18で、ポートトランキングとVLAN間ルーティングを併用した場合に、ルーティングされたパケットに対して負荷分散が行われるようになりました。ただし、送信ポート決定の基準になるのは「IPDEST（終点IPアドレス）」のみで、その他のパラメーターを指定した場合も、IPDEST を指定したときと同じ動作になります。

□　フラッディングされたパケットの送信ポートには、トランクグループ内でリンクが一番最初に確立したポートが使用されます。

□　ポートトランキングとスパニングツリーを同一ポートに設定することはできません。

7.3 フローコントロール(IEEE802.3x PAUSE)について

参照「ユーザーマニュアル」3-6 ページ

「ユーザーマニュアル」3-6ページにフローコントロールについての説明がありますが、本製品のフローコントロール(IEEE802.3x PAUSE)は、PAUSEフレームの受信のみをサポートしています。「バッファーメモリーを監視し、空きが減少してくるとPAUSEフレームを送出する」という動作は行いませんので、訂正してお詫びいたします。
PAUSEフレームを受信した場合は、PAUSEフレームの送信元である接続機器に対して送信を一時的に停止し、フロー制御を行います。

7.4 ハードウェア IP フィルターについて

参照「ユーザーマニュアル」4-36 ページ

「ユーザーマニュアル」4-36ページに、注意事項として「ハードウェアIPフィルターは、本体宛のパケット、および送信元MACアドレス未学習のユニキャストパケットに対しては適用されません。」とありますが、本製品にこのような制限はありませんので、訂正してお詫びいたします。

8 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2(J613-M0522-00 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、付属のユーザーマニュアルと上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、ホームページで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「J613-M0522-00 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

コマンドリファレンス 2.2(J613-M0522-00 Rev.C)へのリンクはこちら:
http://www.allied-telesis.co.jp/support/9606t/manual.html